

ライブ会場で観客が着けたリストバンドが一斉に光り出す。そんな演出を提案しているのがシステム開発のジューワン(大阪府)だ。同社の通信技術「リップルシステム」は微弱な電波でありながら、受信すると自らが電波を発信するため、大がかりな設備が不要なのが特徴。現在はエンターテインメント用途が中心だが、医療や防災など他分野への展開を探っている。

一体感を演出

さいたまスーパーアリーナで昨年11月に開いたアイドルグループのライブ。音楽にあわせて、1万5千人の観客が腕に着けたリストバンドが光り出した。観客とアイドルの一体感をうみだす演出だ。

100坪四方の広大な会場だが、発光を制御する電波を発信しているのはたった1台のタブレット(多機能携帯端末)だ。タブレットからの電波が発光ダイオード(LED)

微弱電波でLED制御

これで勝負

「i-Fi」を使った通信方式が一般的だが、複数の観客が同時に接続しようとすると、混線してつながりにくくなるため大規模な通信設備が必要だ。ジューワンの森啓悟社長(34)は「リップルシステムは網の目のように電波が広がるので、タブレット1台だけでも電波障害が起きることはない」と自信を見せる。リップルライトは発光を制御する情報とともにそれぞれのリップルライトを識別するための固有

従来は無線LAN「W

のID情報も発信するたためにUSB端子で個人を認証するシステムなどを開発してきた。リップルライトは14年に米ラスベガスで開かれた世界最大の家電見本市「コンシューマー・エレクトロニクス・ショー(CES)」で初めて披露した。すでに全国20カ所の会場で採用された実績がある。

患者の状況把握

現在ではライブや結婚式、パーティーなどの演出が中心だが、医療向け患者の状況把握に活用されている。大阪府吹田市)と提携し、院内に患者の状況を把握して治療効果を高めるためのウェアラブル端末の開発を始めた。

医療・防災でも展開めざす

用途開発も進めている。昨年には国立循環器病研究センター(大阪府吹田市)と提携し、院内に患者の状況を把握して治療効果を高めるためのウェアラブル端末の開発を始めた。

生活習慣病に関係する血圧や心電図、血糖値などのデータをリップルシステムを通じて送信する仕組みだ。院内に受信機を設けることで患者の位置も随時把握できる。3年間の共同研究を進める

観客がつけたリップルライトが一斉に光って会場内の一体感を演出する



システム開発 ジューワン

《会社概要》
 ▽本社 大阪市
 ▽売上高 2億7500万円 (2015年5月期)
 ▽従業員 17人

滋賀県長浜市で1999年に設立。地域密着型のネット通販サイト「ピワシティ」などを運営。大手製薬会社のシステム開発を通じて、医療分野向けのサービスなど幅広く展開している。

(世瀬周一郎)

エンビプロ・ホールディングス

佐野 富和社長

鉄などの事業を通じてきた。金庫向かい風とカリサイクルをを広げることを目指す。相上高の9割以上をリサイクル源リサイクル収益構造が4月に環境サルディングの子会社を認る51%を出資同分野でのサルタントを物の処理は企面する課題などを通じてったノウハウ規の顧客開拓2年前に始

トップが語る 経営戦略

エンビプロ・ホールディングスの連結業績

